



本体12,000円(+税)・菊判上製カバー装・912頁・2021年3月刊行・ISBN978-4-585-20080-2 C1000

刊行にあたって

序文より

本書は、人間乱歩、社会、ミステリ、メディア、という部立てからもおわかりいただけるように、乱歩をも含めた大衆や20世紀の全体像の把握、あるいは大衆や20世紀の全体像のなかに乱歩や乱歩文学を位置づけることが企図されている。もちろんこれは、大衆や20世紀、社会やメディアにまで目配りしなくては乱歩や乱歩文学の全体像は見えてこない、という確信に基づいてのことであり、そこに従来の乱歩研究、乱歩文学研究の克服がもたらされていることは言うまでもない。

目標とするのは、大衆文化という大きな枠組みの中で乱歩と乱歩文学の統合的かつアカデミックな再評価を図ることであり、そこにおいては従来の、探偵小説の創始者、児童向け小説の作者、幻影の城主的作家イメージ、などさまざまな分裂・乱立した従来の乱歩像は徹底的に相対化される。

また項目執筆にあたっては、プライオリティ・研究史の尊重や、引用本文・文献の明示など、厳密な研究的態度が厳守される。そしてそのために、近代文学の研究者はもちろん、社会学・メディア学などの広範囲の分野の研究者の協力を仰ぎ、それによってこれまでとは一線を画した乱歩学の構築が目指されている。

構想から完成まで思いもよらぬ長期の作業となったが、幸か不幸か乱歩研究、乱歩文学研究に大きな変化は見られず、その意味では「江戸川乱歩と大衆の20世紀展」(二〇〇四年開催)以来われわれが目指してきた乱歩像・乱歩文学像の刷新という目標は依然として有効であり、願わくは本事典の刊行がその総仕上げとなることを。

【編者紹介】

落合教幸

(おちあい・たかゆき)

日本近代文学研究者。専門は日本の探偵小説。『江戸川乱歩文庫』全十三巻(春陽堂書店)監修。著書に、『怪人江戸川乱歩のコレクション』(共著、新潮社、二〇一七年)などがある。

阪本博志

(さかもと・ひろし)

宮崎公立大学准教授。専門は社会学・メディア史・出版文化論。著書に『大宅壮二の戦後』(人文書院二〇一九年)などがある。

藤井淑禎

(ふじい・ひでただ)

立教大学名誉教授。専門は日本近代文学。著書に『乱歩とモダン東京——通俗長編の戦略と方法』(筑摩選書二〇二二年)などがある。

渡辺憲司

(わたなべ・けんじ)

立教大学名誉教授、自由学園最髙学部学部長。専門は日本近世文学。著書に『江戸遊女紀聞——売女と呼ばれた5』(ゆまに書房、ゆまに学芸選書ULUKA、二〇二二年)などがある。

本書の特色

- 幅広い作風で知られ、現在においても多くのファンを得ている稀代の推理小説作家、江戸川乱歩を知るための決定版事典。
- 大衆文化という枠組みから乱歩および乱歩作品を統合的に捉え直し、アカデミックな再評価を図る。
- 近代文学・文化の研究者のみならず、社会学、メディア学、ミステリー研究、近世文学・文化等々、諸分野の線く活躍する執筆者が寄稿。
- 旧乱歩邸の蔵書調査などにより判明した新知見を収載。
- 巻末には「江戸川乱歩小説作品初出/初刊一覧」「年表」「作品索引」なども付し、利用の一助とした。

【執筆者一覧】

五十音順

赤上裕幸	飯田豊	井川充雄	井上義和	茨木正治	今田絵里香
岩田準子	老川慶喜	大鹿貴子	大村菜恵	落合教幸	小野高裕
小櫃暢太郎	影山亮	片山慶隆	加藤れん	川井ゆう	川崎賢子
久下正史	工藤保則	栗田卓	後藤美緒	後藤隆基	小松史生子
齋藤光	佐伯順子	阪本博志	佐藤卓己	柴野京子	下川歌史
白戸健一郎	新藤雄介	副島博彦	宋玗炫	谷川建司	谷口基
近森高明	筒井清忠	出口智之	戸川安宣	中相作	永井良和
永谷健	中村健	成田康昭	難波功士	西村大志	丹羽みさこ
沼尻正之	野上元	浜田雄介	原克	ビートル・トローゼ	
平井憲太郎	藤井淑禎	細谷朋子	堀江あき子	前島志保	前田潤
牧義之	松川良宏	松田祥平	松本陸社	宮川健郎	村松まりあ
安智史	山口直孝	山口美佐子	横田遼	渡辺憲司	

江戸川乱歩

ENCYCLOPEDIA OF RAMPO EDOGAWA

本体12,000円(+税)
菊判上製・912頁
2021年3月、
堂々刊行!
ISBN978-4-585-20080-2 C1000

落合教幸 + 阪本博志 +
藤井淑禎 + 渡辺憲司 (編)

大事典

ENCYCLOPEDIA OF
RAMPO EDOGAWA

稀代の推理小説作家、江戸川乱歩。

死後五十年を経て、未だ我々を魅了し続ける乱歩の創作・思考の背景にあるものはいったい何か。乱歩の形成した人的ネットワーク、そして彼の生きた戦前戦後という時代と文化事象、出版文化の展開とともに花開いた様々な雑誌メディアなど、総勢七十人に及ぶ豪華執筆陣のナビゲートにより、

乱歩ワールドの広がりを感じてみる本邦初のエンサイクロペディア、ついに公刊!

江戸川乱歩大事典 落合教幸+阪本博志+藤井淑禎+渡辺憲司(編)		本体12,000円(+税) 菊判上製カバー装・912頁 2021年3月刊行・ISBN978-4-585-20080-2 C1000	書店 番線印
ご送付先ご住所(通信欄)		ご注文部数	

目次

【カラー口絵】

- I 人間乱歩
- II 社会
- III ミステリー
- IV メディア



●乱歩の生涯に関する伝記的事項また、個人的な趣味・嗜好について記述した。

【第I部】人間乱歩



- 祖父との思い出
- 名張
- 名古屋
- 愛知県立第五中学
- 早稲田
- 早稲田大学
- 鳥羽
- 団子坂
- 車町
- 張ホテル
- 池袋
- 乱歩邸
- 土蔵
- 豊島文人会・豊島新聞社
- 池袋モンパルナス
- 三原堂
- 乱歩通り・ポー通り
- 立教大学
- 職業遍歴
- 三人書房
- 屋台ラーメン
- 隣組・町会
- 空襲
- 疎開
- 新年会
- はちまき(天ぶら屋)
- 江川蘭子(江戸川蘭子)
- 小松龍之介
- 講談体験
- 文士劇
- 手品(手妻)
- 怪談
- 謡曲・音曲
- 歌舞伎
- 江戸文学
- 男色
- 蔵書
- 蔵書印
- 古書収集
- 錦絵
- 印刷
- レンズ・鏡
- 人形
- 英米進出の夢

【第II部】社会

●乱歩の生きた時代および社会状況、大衆文化について、乱歩作品や乱歩その人との関わりを含め、記述した。

- 郊外
- 文化住宅
- 文化アパート
- 下宿
- 百貨店/デパート
- カフェー
- レビュ(レヴュー)
- パノラマ
- 浅草オペラ
- マノホール
- 近代家族
- 大衆
- 遊民
- モボモガ
- 富豪
- 関東大震災
- 関東大震災以後
- 大東京
- 今和次郎
- 『新版大東京案内』
- 京浜国道
- 昭和通り・大正通り
- 国技館
- 銀座
- 上野
- 浅草
- 十二階
- 隅田川
- 龍土町
- 戸山ヶ原
- 世田谷
- 花月園
- 大船観音
- 京阪電鉄
- 鉄道
- 地下鉄
- 自動車
- 円タク
- カーチェイス
- 信号
- 飛行機
- 気球・飛行船
- 船
- モーターボート
- 誘拐
- 犯罪捜査
- 猟奇殺人
- エログロナンセンス
- セクソロジー
- のぞき
- 裸体
- 心理学
- フロイト
- ミュンスターバーグ
- 南方
- 戦災孤児
- ルパンカ

●乱歩の文学的営為の中心にある「ミステリー」に関して、影響関係、交友関係のあった人物、関連する事柄について記述した。

【第III部】ミステリー

ミステリー

- エドガー・アラン・ポー
- アーサー・コナン・ドイル
- モーリス・ルブラン
- ガストン・ルルー
- G・K・チェスタトン
- ヴァン・ダイン
- エラリー・クイーン
- ジョン・ディクスン・カー
- 巖谷小波
- 菊池幽芳
- 黒岩涙香
- 谷崎潤一郎
- 佐藤春夫
- 宇野浩二
- 小酒井不木
- 森下雨村
- 横溝正史
- 甲賀三郎
- 大下宇陀児
- 水谷準
- 海野十三
- 渡辺啓助
- 渡辺温
- 角田喜久雄
- 平林初之輔
- 井上良夫
- 浜尾四郎
- 稲垣足穂
- 岩田準一
- 南方熊楠
- 萩原朔太郎
- 木々高太郎
- 小栗虫太郎
- 夢野久作
- 山田風太郎
- 春山行夫
- 中島河太郎
- 戸板康二
- 野村胡堂
- 山手樹一郎
- 松本清張
- 水上勉
- 中井英夫
- 三島由紀夫
- 『奇譚』
- 合作(耽綺社)
- 精神分析研究会
- 推理小説ブーム
- 探偵作家クラブ
- 捕物作家クラブ
- 文壇作家
- 社会派推理小説
- SF
- 暗号
- 探偵・岩井三郎
- 明智小五郎
- 明智文代
- 怪人二十面相
- 少年探偵団

【第IV部】メディア

●乱歩のかかわった新聞・広告出版・雑誌等のメディア、また、乱歩作品のメディア化について記述した。

- 新聞
- 犯罪報道
- 風評(うわさ)
- 電信・電話・電報
- 伝書鳩
- 新聞広告
- アドバルーン
- ラジオ放送
- 貸本
- 円本
- 検閲
- 博文館
- 春陽堂
- 講談社
- (大日本雄弁会講談社)
- 野間清治
- 平凡社
- 改造社
- 光文社
- 早川書房
- 東京創元社
- ポプラ社
- 『東京バック』
- 『東京朝日新聞』
- 『大阪朝日新聞』
- 『時事新報』
- 『報知新聞』
- 『写真報知』
- 『新青年』
- 『文芸倶楽部』
- 『講談倶楽部』
- 『探偵趣味』
- 『苦楽』
- 川口松太郎
- 『大衆文芸』
- 『サンデー毎日』
- 『キング』
- 『富士』
- 『朝日』
- 『日の出』
- 『中央公論』
- 『ぶろふいる』
- 『日本探偵小説傑作集』
- 『面白倶楽部』
- 『宝石』
- 『オール讀物』
- 『少年倶楽部』
- 『少女クラブ』
- 『少年』
- 『冒険世界』
- 『こども家の光』
- 学年別雑誌
- 学校読書調査
- 全集
- 挿絵
- 代作
- 翻訳
- 映画化
- 舞台化
- 菊田一夫
- 漫画化
- 講談化・落語化



●乱歩のかかわった新聞・広告出版・雑誌等のメディア、また、乱歩作品のメディア化について記述した。



【付録】
江戸川乱歩小説作品初出/初刊一覧
年表「江戸川乱歩とその時代」

江戸川乱歩作品名索引

【編集方針】

- 本書は江戸川乱歩の総合的大事典である。特に以下の点に留意し、編集した。
- ①探偵小説の創始者、児童向け小説の作者、幻影の城主的作家イメージ、とさまざまな分裂した従来の乱歩把握と訣別して、大衆文化という大きな枠組みの中で乱歩と乱歩文学の統合的かつアカデミックな再評価を図る。
- ②プライオリティ・研究史の尊重や、初出・初刊等に基づいたアプローチなど、厳密な研究の態度を厳守する。
- ③右記二点の実現のためにも、近代文学の研究者はもちろん、社会学・メディア学などの広範囲の分野の研究者の協力を仰ぎ、これまでとは一線を画した乱歩学の構築を図る。

